

第76回

梧桐会総会開催

5月12日(日)
於・大崎高校



第59号

平成25年4月1日発行
発行所 梧桐会
事務局・東京都大田区新蒲田
3-18-1-507 渡部良彦
TEL/FAX 03(3730)8117
編集人 渡部良彦
発行所 川村英
印刷所 英進

「大崎高校の新しい風」

昨年度は、本校の教育活動の充実・発展に向けて、同窓会員の多くの皆様からご支援をいただき、教育活動が充実した1年でした。ここに、同窓会員の皆様に深く感謝を申し上げます。また、本校は、平成24年



都立大崎高等学校長 牛来 聡

会報の紙面をお借りして、本校の生徒の様子や今後の教育活動について紹介させていただきます。

本校の誇り高き生徒

誇りある生徒として活躍している生徒をいくつか紹介できる訳ではありませんが、その例をいくつか紹介したいと思います。

は、正に、誇り高き生徒です。
③防災においては、2度の宿泊防災訓練に、最後までやり遂げた多くの生徒がいたこと。防災活動支援隊に参加しリーダー候補、地域の総合防災訓練や町会での防災訓練に積極的に参加してくれた生徒がいました。これも誇り高き生徒です。

教職員や生徒とともに「Change OSAKI」に向けて取り組んできた1年間であります。本校には規範意識の醸成、基礎学力の向上、家庭学習時間の確保、進路実現など、まだまだ課題が山積をしております。今年度は、こうした課題に対応するために、さらに教育活動の充実に向けて取り組んでまいりますので、同窓会員の皆様には、一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

を逞しく生き抜いていくために必要となる「タフな人間の育成」を目指して取り組んできたところです。「タフな人間」とは、困っている人を助け、社会のルールやマナーを守る高い規範意識があり、そして、社会貢献、スポーツや文化活動などを通して自らの心と体を強く逞しく鍛え、基礎学力が身に付いた知性のある人間になることです(知徳体十志の教育)。今年度はこの「タフな人間の育成」に向けて、本格的に取り組んでまいりますので、計画

- ①自律心と共生をはぐくみ、健全育成・規範意識の醸成・社会貢献の推進
②大崎高校生活指導スタンダードの作成、実践による生活指導の徹底
一、時を守り、遅刻をしない。二、場を清め、清掃をする。三、礼を正す、挨拶をする。など
③道徳教育・健全育成の推進
・体験活動
・道徳教育
・文化部・運動部
・防犯活動支援隊の継続
④志の育成
①大崎志クラブの設置などです。こうした教育活動を通して、102年目の大崎高校をさらに発展・充実させてまいりますので、同窓会員の皆様からの一層のご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

新しい風を吹き込み、知・徳・体十志の教育活動の推進

昨年度は、都教育委員会から重点支援校、防災教育推進校の指定を受け、新しい風が薫る中、

第76回 梧桐会総会
日時 5月12日(日) 母の日
12時30分(受付開始)
13時~16時
会場 大崎高校 1階食堂
会費 2,000円(新卒者 無料)
当日会場でお支払いください。
プログラム 会長の挨拶・学校長の挨拶
会務報告・会計報告・その他
当日、お手伝いをしていただけの方がいらっしゃいましたら10時30分までに会場にお集まり下さい。よろしく申し上げます。

ご挨拶

今年は、桜の咲く時期がことのほか早く、例年になく暖かい春となりましたが、梧桐会会員



梧桐会会長 川村 治

日頃より同窓会の活動に対し、大きなご理解ご支援を頂戴しておりますこと、厚く感謝申し上げます。さて、本年も同窓会総会を五月十二日(日)母の日に母校大崎高校にて第七十六回総会を開催致します。会員の皆様方には是非同級・同期・先輩・後輩をお誘いの上多数ご出席下さいます事を心より御願ひ申し上げます。

い検討を致しましたが、五月母の日開催は、昭和三九年から続いている経緯もあり、会員にも周知されていることも有りますので継続とさせていただきます。唯、今後多くの変更が有った際、学校にて総会開催が出来なくなった場合には総会日時の変更を再度幹事会にて検討致す事と致します。

なりました。在校生への梧桐会報配布や、一月には入会の呼びかけをさせていただきますが、昨年度よりは少し好転した程度でした。梧桐会では、会報の発行については事務局を中心として、掲載原稿の依頼や特集記事の企画編集等に大変頑張ってもらっております。又総会につきましては幹事会を何度も開催し、副会長を中心に全員にて準備を進めているところです。毎年ご寄付のお願いに誠心苦しい事ではございますが、梧桐会の運営費用は、新入会員から戴きお一人様七千円の終身会費と

大崎高等学校創立百周年記念誌について
百周年記念に発行された「大崎の百年」が若干の残数があります。ご希望の方は、下記の要領でお申し込みください。
頒布価格は2,100円(送料込み)です。
発送時に払込取扱票を同封します。
①梧桐会事務局へメールを送る aogiri_kai@yahoo.co.jp
②梧桐会事務局へFAXを送る 03-3730-8117
③梧桐会事務局へはがきを出す
〒144-0054 大田区新蒲田3-18-1-507
梧桐会事務局あて
※電話は受け付けません。
以下をお伝えください。(すべて)
①会員番号(宛名に印字してある5桁(旧職員は4桁)の数字
わからない場合は卒業年度
②氏名(フルネームで)
③郵便番号、住所(正確に)
④電話番号・FAX番号(急な連絡の時に連絡のつく番号)
在庫限りです。完売の場合はご了承ください。
できるだけ多くの卒業生の手に渡るようにしたいと思います。すでにお持ちの方はご遠慮ください。また、一部装丁が異なる場合があります。

梧桐会ホームページを閲覧頂き、会員相互の交流を深めて頂きたいと願っております。尚事務局のFAXも稼働しておりますので、インターネットをご利用いただけます。尚事務局のFAXへ是非皆様方のご意見を寄せ頂ければ幸いです。

あれから2年—今の福島は、

金子 史男 (昭和33年度卒)

小生の第2の人生として19年間勤務した福島県立医科大学を平成18年3月に定年退職して72歳を越えた今、福島県郡山市(人口36万人)の総合病院の現役の皮膚科医師として既に7年が過ぎた。つまり、第1の人生として過ごした北海道大学病院のある札幌市から昭和62年に福島市に移り住み、27年目になり、定年後もこれまでの続きのように皮膚科・アレルギーの臨床と研究に平穏な日々を過ごして来ました。ご周知のように2年前に夢にも思わなかったことが起き、その後時は時の波に翻弄されています。

2011年3月11日、午後2時46分未曾有の大震災が東北地方を襲ったのです。福島県は東京電力の原発地帯を浜通りの双葉地方に抱

えており、いかなる災害に對しても安全である、と言いつけてきた「安全神話」を誰しもが信じていたのです。しかし、震災直後の浜通地方は大津波に襲われて原子力発電所も被災し、ついに水蒸気爆発、そして原子炉のマルチダウンが起きてしまい、大きな危機を迎えました。

当時、地上の風向きは冬の気候に近く、北西から南東に、すなわち陸から海に向かって吹いていました。しかし、上方の上昇気流は逆に南東から北西に吹いていたようです。したがって原発から吹き出て、高く上がった放射性ヨウ素とセシウムは大熊・双葉地方から地上の風とは逆に上昇気流に乗って南相馬市の小高地区を上限に浪江地区をへて北西に運ばれ、40〜50km離

れた飯館村の上空、さらには60km以上離れた本松市、福島市、伊達市にまで拡散するという学者の意見を無視して、その方向に、すなわち地上の風上の「放射能拡散地域」に多くの住民の避難を誘導してしまいました。これは政治が科学的根拠を無視した悲劇で、大きな災いでもありました。

そうとはならず、われわれ福島市民(人口約28万人)は震災により水道、ガス、所により電気などの「生活ライン」を失い、給水車から一人2リッター迄と制限を受けていたため、子供から大人まで家族全員で水を受けるために外に長い列を作り、スーパーマーケットでは店外に長い人の列とガソリンスタンドでは延々と車の列を作って並び、自ら放射能を浴びる事態になりました。

若い人々さえが、県内外の原発の影響の少ない地域に自主避難してしまいました。世間の風評被害は例えようもなくひどく、福島県産の作物は売れなくなり、経済的に大きな被害を受けています。原発から100km以上離れたNHK大河ドラマの「八重の桜」の故郷の会津若松市でさえ、英語で全ての講義が行われている電子工学の大学として有名な県立会津大学からは、外国人講師がそれぞれの大使館からの避難命令に答えて帰国してしまい、日本人同士で英語講義をしなければならぬ状態が起りました。

一方、いわき市、福島市、郡山市、会津若松市には多くの仮設住宅が建てられ、県内避難されている人達が入所され、それぞれの故郷に「いつ戻れるのか」、「除染はいくつ行われるのか」など、各自自治体内で闘争が行われており、テレビ放送の話題に取り上げられていません。しかし、特に避難民の青年層の方々は既に故郷

多くがシャッターを閉めていた。復興を呼びかけて、昨年7月27〜29日には600年続いている伝統の祭り、騎馬武者行列「野馬追」が再開され、その日のみは街が「にぎわった」ようです。

一方、同市の大病院である市立南相馬病院、大町病院、渡邊病院では多くの医師、看護師などが去り、医療崩壊の危機を迎えています。しかし、小人数ですが東大医科研究科、千葉県の亀田総合病院、他にポランテア医師などが短期的に応援に駆けつけ、何とか毎日の診療を続けているとのこと、地元住民は感謝しています。福島県からは70名以上の若い医師が県外に去ってしまいました。県内の他の地域の病院も医師不足で「火の車」で深刻な問題を投げかけています。余談ですが、大崎高校の若い後輩の皆様が医療の世界に大いにチャレンジされることを真に願っております。

南相馬市から相馬市に通ずる国道6号線を北上すると、その海岸側は幅約4kmにわたって津波が押し寄せたため、美しく広がって

会員だより

東日本大地震と津波

橋爪 幸平 (昭和29年度卒)

当日、私は釜石に行っていました。大船渡に帰って来たのが十四時十五分でした。当社釜石支店に寄り、三十分も話をしていると大変危ないところでした。

地震発生十四時四十八分、まもなく大津波の襲来と危険な状態でした。私は自分の部屋に入ってパソコンを立ち上げ何かをしようとしていました。地震発生の際

支店は全員無事避難、高田支店のみ一行方不明者が出た事は誠に残念でありました。私の自宅は高台にあつたので津波の被害はなかったが、地震によって屋内の壁、或は外壁を全部取り替えることになりました。

この震災に遭って親を失い、又、子を失い、家を流された社員一同は誰一人も頭を垂れる事なく顔を毅然と上げ、社の復興に全力を挙げて取り組んでくれた事に感謝と誇りを持ちました。

た「田んぼ」と農家の家々は壊れ、荒れ果てた原野に変わってしまいました。内陸側はこの国道6号線が防波堤となつたため幸いにも被害を受けず、「田んぼ」と建物、そして紅葉に輝く「山々」がみられました。しかし、相馬市郊外にある磨崖仏「百尺聖観音像」は地震のため、顔にひびが入り、その上げた祈りの左手は無残にも折れて、下に落ちてしまいました(写真2)。

橋爪幸平さんは同社の代表取締役会長です。

我が社では、「地震の時はまず高台に逃げる」ことが社命としていましたので、本社は全員、南三陸支店、釜石支店、宮古支店、久慈

対策本部となり、会社再建に向けて社員一丸となつて取り組んでいくことになりました。当時三十名位の社員が詰めて居りました。

この震災を可として街も人もより一層強く前進していったらいいと考えています。

「復興」は、何年かかれば元に戻活出来るのでしょうか。(平成25年3月21日、記)



写真1



写真2



写真3 (上) 写真4 (下)



同期会報告

川島(伊藤) 美紀(昭和62年度卒)



平成24年10月14日(日) 18時〜21時 品川の青蓮にて大崎高校昭和62年度卒3年D組&一部H組 先生方3名の総勢34名で同期会が開かれました。

来年3月に定年退職を迎える井上雅博先生をお祝いするため、今須(旧姓松村)

久しぶりのクラス会



長久保 定雄(昭和58年度卒)

昭和58年度卒業、故・伊佐憲二先生の担任の下3年間同じクラスで過ごした私どものクラスの現況を報告させていただきます。

ある日のこと、急に小生が「高校時代の仲間を集めなければならぬのではな

いかな」という不安に駆られ

ました。あの大震災直前の2011年初旬のことです。今から思えば、来るべき大震災を前に「大事な仲間を集めなければ」という動物的な勘が働いたかもしれませ

ん。そこで、もう何年も会っていないけれど、携帯電話

でFacebookを始めると大嶋の名前を見つけた一人の女子が、まず、勇気を出して大嶋の会社まで電話をしてきました。実に20年ぶりの連絡。インターネットの凄さを感じます。大き

かったのはFacebookです。ぐに反応してくれた大竹と

山岸です。大竹は2年生の時に転校したのですが、楽しかったクラスのことを忘れられず、卒業後数年実施していたクラス会に毎回参加していた大崎なクラスメイトであり、企画をやらせれば天下一品。山岸はその

後、「引きの山岸」と呼ばれるほど、多くの人を集める才能を見せ、クラスメイトの行方がどんなに分かるようになり、現在、Facebookでつながっているクラスメイトは約20名です。

発起人の一人である大嶋はちょうどその頃、大きな仕事にかかっていたので津野、山岸、大竹、長久保の4人が幹事となり、クラス会を企画することになりました。そして、幹事会と称する大酒飲み会で、「我々の歳の頃は、仕事も

実際は3時間半近くお田にいたのですが、あつという間でした。20数年振りの再会でしたが、すぐに当時の話、仕事や家庭、子供の話など近況の話で盛り上がり、皆40歳を過ぎているのに、高校生の時のように騒ぎすぎお店の方に注意されるほどでした。高校時代と体型や顔が変わらない人、面影が微かに残っている人、貫禄がありすぎる人など4半世紀の年月を感じました。

井上先生の挨拶の後、平田先生より一言、乾杯の音頭を取って頂き、皆で会えたことを乾杯しました。宴の合間に以下のことをしました。

- ・平出先生より一言
- ・同期生一言ずつ挨拶
- ・還暦のお祝いにちゃんちゃんこをプレゼント
- ・初めは躊躇っていましたが着て頂き、あまりに似合っていたので、(カメラフラッシュの嵐でした。)
- ・長年の教員生活を讃え感謝を込めて表彰状授与
- ・ジャージ上下、帽子、カバンをプレゼント
- ・ソムリエをしている田中さんより(個人的に)ワインのプレゼント
- ・梧桐会より頂いた「大崎の百年」を同期生に回覧後、プレゼント
- ・来ていただいた平田先生、平出先生にもプレゼント贈呈
- ・お店の外で記念撮影

仕事の関係で二次会からの参加者もいたため、井上先生にもお付き合い頂き二次会が開かれました。

今回撮った写真の管理を

柴山さんが協力してくれました。それらの写真と同期生の先生へのメッセージカード&個人写真を今須(松村)さん、安田(坂本)さん、酒井(吉沢)さん、大渡(茂木)さん、川島(伊藤)さんがとめ、後日、井上先生へプレゼントしました。

今回参加できなかった方も含めメッセージ書きや個人写真提供など協力して頂いた同期生の皆様に感謝するとともに、また、いつの日かみんなで会える日を楽しみにしたいと思います。

井上先生ですが、とてもお忙しい原稿を書くことが難しいとのことでしたので、インタビュ形式にさせて頂きました。

井上先生へのインタビュ内容です。

①大崎高校在職期間、年数はどのくらいですか?

昭和60年〜平成9年の12年間

②思い出に残る行事又は思い出は何ですか?

球技大会、体育祭、修学旅行

素晴らしい生徒達に巡り素晴らしい生徒達に巡り合えたこと

③大崎高校はどんな高校でしたか?

高校生らしく素直な生徒が多い学校

④教師になろうと思ったきっかけ、動機は何ですか?

小学3年から6年までの担任だった先生の影響。沢山のスポーツや色々なことを教わっていたことに

⑤教師をやっていた良かったと感じたことはありますか?

良い生徒に出会えたこと

⑥教師をやめたと思ったことありますか?

ありません

⑦教師成り立ての頃と今では生徒の性質は変わりましたか?

たか? 学校によっても大きく違うのでよくは解らないが、時代が変わったことはあると思います

⑧現在の勤務場所はどこですか?

都立第三商業高等学校に勤務しています

⑨家族構成を教えてください?

奥様との娘の3人暮らし。近くに娘夫婦と孫2人がおり、毎日うちで一緒に夕食を食べています。

⑩お孫さんとは何を遊ばしますか?

自動車、プラレール、サッカー、野球、公園など

⑪趣味は何ですか?

マタイやヒラマサなどの釣りとアルペン競技スキー

⑫釣った魚はどうしますか? 魚拓? 自分で調理する?

魚拓にもすることもあり、自分で調理する。

⑬スキーはいつまで続けますか?

身体が動けるうち

⑭座右の銘またはモットーはありますか?

質実剛健

⑮来年、定年を迎える今の気持ちを教えてください。

定年でも仕事を続けるつもりなのであまり変化はないかと思うけど、強いて言えば一区切りがついたような気がします。

⑯定年後の予定はどのような考えていますか?

あと、5年現在の高校に勤務すると思う

現在の職場を希望しているけど、2月頃にははつきりすると思います。

⑰最後に井上先生が大崎高校で教えた教員の子の皆さんにメッセージをお願いいたします。

元気でやれー!!!

す。われわれ幹事は嬉しくつけた男もいます。

久しぶりのクラス会が始まったときは、少しごちなかつたのですが、時間が進むにつれ、昔と同じ顔と言葉になり、大変な盛り上がりとなりました。

店を紹介してくれた大竹がクラス会前に、「飲み物はひとりワイン一本くらいは計算でいいかしら?」というのを私が、「そんなに飲めるわけないだろう」と馬鹿にしていたのですが、ワイン一本どころではあります。とてもなくすごい数のワインボトルが空になつていきます。最終的に何本になったかは、恐いので聞いていませんが、

1次会が終わって、2次会に行き、そして、話が尽きないので3次会へ。3次会でも20名近くいたと思いま

した前日にも、ヨガと飲み会のセット企画が開催されました。

このように活動的にできるのは、まだまだたわわれが若いからだと思います。若いうちにみんなに連絡してよかったと思っています。まだ何十年も一緒に遊べる幸せです。

Facebookのようなインターネット上のコミュニティに関しては、発言の道徳性などが問題になっていきますが、われわれは、もう大人。発言内容は、仲間を楽しませ、そして勇気づけ、そして慰め合う内容ばかりです。

教え子が集まっているだけでなく、教え子が大人になつたことを、天国の伊佐先生はとも喜んでいてくれると信じています。

「はじめまして!」というのか、「ご無沙汰してます!」というのかイマイチわからない状況にて、このたび母校同窓会の幹事を受けることとなりました。県昌稔(あがたまさと)と申します。何卒、よろしくお願いたします。

この度、幹事という大役(?)を受けることとなつたきっかけは、現幹事で3年次の同級生であるO君からの「一緒にやらないか?」の一言でした。

彼とは某SNSで数年前から繋がっており、お互い近況などを(ウェブ上で)報告しあつております。

昨年話になりませんが(なるべく端折りますよ)、彼が住んでいる地域のお祭に神輿の担ぎ手として行った際、二人で近況報告を兼ねて一杯(いや、がっつり)呑んでいたときにその話題となり、「一体ナニを一緒にやるのだ?」と疑い、「もしや、新卒の勧誘か(笑)?」とまで勘ぐつたものの、詳細を聞くに従い、「オレ風情の30男にお役目動まるのか?」などとももろもろ考慮討議を重ねつつ、そしてカラのグラスも重ねつつ、結果快諾した次第でございます。もちろん、アルコールの勢いノリで承諾したわけではございません。

自身の現役時代を振り返ると、シラフで冷や汗をかいてしまうほどそれはそれは恥ずかしくもたまもったいないものだったと反省するところ盛りだくさんでござ

梧桐会からのお知らせ

平成元年度以降に卒業された方にお知らせです。これまで、5ケタの会員番号上二桁に71XXX~93XXXと付けてまいりましたが、あと数年で一巡してしまいます。そのため、空いていた64XXX~70XXXを使用し、70000番繰り上がります。ちなみに、昭和に書き換えると、昭和〇年度の卒業となります。

帰ってきました!



昌稔(平成8年度卒)

